

群青



八雲町立八雲中学校

令和8年度
6月号

★教育目標 郷土を愛し、未来を築く人間の育成
・健康な生徒(体) ・創造する生徒(知)
・実行する生徒(意) ・感動する生徒(徳・情)

★重点教育目標

「互いに認め合い、学び合う生徒」の育成

二海郡八雲町東雲町 31 番地1

E-mail : yakumo-jh@town.yakumo.hokkaido.jp

「嬉しそう」を見ることが一番嬉しい。

八雲町立八雲中学校長 植田 資世

学校で生徒たちを見ていて嬉しくなる場面はたくさんあります。授業でわからなかったことが分かるようになった時の顔（実はけっこうあるのです）、友達と語らいあっている時の顔、何かの競争に勝った時の顔（これは個人的な時よりも集団での時が多いようです）、誰かに褒められたり認められた時の顔…。こういう顔に遭遇すると教師になって本当に良かったなあとと思います。私個人では実は給食の時間の顔を見られることが一番幸せを感じるのです。これは大人は皆同じではないかと思います。嫌いな食べ物でも量が多くてもそれでもほおぼって食べてくれる姿を見ると「生きること」に直結する喜びを感じます。しっかり食べて、眠って、健やかに過ごしてくれることが第1の願いです。

食育という言葉がよく使われます。食育は生きる上での基本であり、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得して健全な食生活を実践することができる人を育てるものです。何を食べるか、どのように食べるか、いつ、誰と食べるか、自分で考え選択するのです。「食文化」という言葉もありますから食べることは実に奥の深いものです。

私のルーツは和歌山県です。父の実家は小売りの酒店でした。小学生の頃は帰省すると近所への配達や瓶のふき掃除、店番などを手伝いました。当時は店の中でお酒を飲みに来るお客さんがいま

した。何人か決まった人たちでしたが、その中に毎日自転車で来るおじいさんがいました。必ず荷台に新聞紙の包みをくくりつけて来ます。店にはカウンターがあって、店番の私は一升瓶からコップに一杯注いでお出しします。するとおじいさんは新聞紙を開きます。中には真っ赤なトマトが二つ入っています。それをがぶりと美味しそうに頬張るとコップのお酒を飲むのです。実はそのころ、私はトマトが大嫌いで食べられませんでした。しかし目の前でおじいさんはそのトマトを嬉しそうに食べるのです。何度もこういう日が続き、ある時おじいさんが「食うか？」とトマトを差し出しました。私が必死に首を左右に振ると大きな声でおじいさんは笑っていました。…いつの間にか私はトマトが食べられるようになりました。今では好物の一つです。おそらくあのおじいさんのおかげだと思うのです。あの嬉しそうに食べる顔のおかげです。私にとってはとっても貴重な「食育」だったのです。

食えることだけではなく、何でも「嬉しそうに」することができたら、それが一番幸せなことかもしれません。嬉しそうな生徒の顔が増えるように今後も励みます。